

【ESD先進地視察】

ESD推進ネットワーク全国フォーラム2017 参加報告書

～地域におけるESDのさらなる展開に向けて～

英語教育専修 学部4回生 谷垣 徹

1. 日時 【1日目】平成29年11月24日（金）13：00～18：00
 【2日目】平成29年11月25日（土）9：30～13：00

2. 会場 立教大学 池袋キャンパス
 太刀川記念館（全体会）、5号館（分科会）

3. 参加者 英語教育専修 学部4回生 谷垣 徹

4. 主催 ESD活動支援センター、文部科学省、環境省

5. 開催目的

- ESD推進ネットワークとESD活動支援センター、地方ESD活動支援センターおよび地域におけるESD活動の支援窓口となる地域ESD活動推進拠点に関する理解を広める。
- 分野、セクターを超えて多様な主体が連携・協働してESDを推進（質的向上・量的拡大）するために、お互いに面識をつくり、地域を越えて実践例をもとに学び合い、ESD推進方策について意見交換を行う機会をつくる。
- SDGs達成に向けた意識・行動変革を進めるESDという意識の共有をすすめる。

6. 内容

(1) ESD実践見学（Bコース：東京都江東区立八名川小学校）

ESD推進ネットワーク全国フォーラム2017の開会に先立って、ユネスコスクール・サステイナブルスクール（文部科学省ESD重点校形成事業）に指定されている東京都江東区立八名川小学校の見学会が行われた。手島校長からは、学習指導要領の改訂におけるESDの位置づけ、研究主題として八名川小学校が取り組まれてきた主体的・対話的な学習課程、年間のESD学習活動の発表の場として行われている「八名川まつり」などについての紹介があった。八名川小学校では、各学年における各教科・領域での学びをESDの観点から横断的に系統立てて整理した「ESDカレンダー」や、国連から出された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals；以下SDGs）を学習課程の中にどう取り入れるかを整理した「SDGs実践計画表」を作成し、学校全体でESDに取り組んでいる。

(2) セッションI. 地域におけるESDのさらなる展開に向けて

—貴重パネルディスカッション 各地域・団体からの実践事例の発表—

- ファシリテーター： 東京大学海洋アライアンス機構 主観研究員 及川幸彦 氏
 <NGO> 一般社団法人あきた地球環境会議 理事・事務局長 福岡真理子 氏
 <企業> 住友理工株式会社 CSR部長 戸成司朗 氏
 <教育委員会> 大牟田市教育委員会 教育長 安田昌則 氏



フォーラムの開催案内

セッション I.では、NGO、企業、教育委員会の三つの立場から、地域における ESD の取り組みについての実践発表があった。

【NGO】

NGO の分野からは、秋田県を中心に環境教育のプログラムを出前授業などで実践されている環境 NGO からの発表があった。多様な環境教育プログラムを持っており、秋田県内でも年間 40 件を超える実績があり、そういった ESD 環境教育モデルプログラムの実践事例冊子を発行している。

しかし、全国に配布しているにもかかわらずその普及は十分ではなく、ESD 活動支援センターへの期待として、既存のプログラムのさらなる発信が求められていた。

【企業】

企業の分野からは、SDGs を会社の CSR 経営の指針として推進している住友理工株式会社からの発表があった。現在、ESD や SDGs などを経営理念に進めている企業が増えており、ESD や SDGs のフレームワークで企業同士がつながり、持続可能な社会作りに取り組んでいる。ESD の対象は子どもだけではなく、子どもから大人への一貫した流れの中で行われることが求められており、企業が ESD 推進のキープレーヤーとして取り組みを進めている。経営戦略としてのトップダウン方式と従業員参加のボトムアップ方式の両面からの取り組みが行われている。

【教育】

教育の分野からは、平成 24 年に市内全小中学校がユネスコスクールに一斉に加盟した、大牟田市教育委員会からの発表があった。各学校にユネスコスクール担当者を設置し、また ESD 推進本部を立ち上げ、市全体で ESD を推進している。安田教育長からは、ESD 活動支援センターに期待することとして「情報・人・組織・活動・学び」の五つをつなげることを求められていた。

NGO、企業、教育の三つの分野からの事例発表を受け、ESD 活動支援センター（全国・地方）が果たすべき役割として、以下の三つのことが確認された。一つ目は、同じような取り組みをしている多様なステークホルダーがつながる「出会いの場」になること。二つ目は、ESD であると意識していなかった取り組みを ESD の枠組みから捉えることで、質的向上を図ること。三つ目は、ESD 実践の「空間的濃淡」を埋めていくことである。

(3) セッション II. ESD 推進ネットワークと多様な活動事例

ーポスター発表・情報交換セッションー

セッション II.では、ESD に関わる多様な機関、センターからのポスター発表があった。ESD 活動支援センター（全国センター）や全国 8 ヶ所に設置されている地方センター、そして日本 ESD 学会、公益財団法人日本ユネスコ協会連盟、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）など ESD に関わる機関、計 17 点の発表があった。



パネルディスカッションの様子

(4) セッション III. ESD 関連省庁施策と ESD 推進ネットワークへの期待

ファシリテーター 東京都市大学環境学部教授 佐藤真久 氏

文部科学省 国際統括官付国際戦略企画官 小林洋介 氏

外務省 国際協力局地球環境課 首席事務官 滑川博愛 氏

消費者庁 消費者教育・地方協力課長 尾原知明 氏

環境省 大臣官房環境経済課環境教育推進室室長 永見靖 氏

セッション III.では、ESD 関係省庁として、文部科学省、外務省、消費者庁、環境省の四つの省庁からの関連施策の紹介があった。

【文部科学省】

文部科学省からは、ESD の推進拠点としてのユネスコスクール、それらのユネスコスクールを支援する大学間ネットワークである ASPUnivNet、地域における多様な ESD の担い手の連携強化を進めるコンソーシアム事業などの取り組みについて、また学習指導要領の改訂における ESD の取り扱いや、ESD と SDGs の関連、「ESD 推進の手引き」とその活用などについての紹介があった。

【外務省】

外務省からは、ODA 政策を通じた ESD への寄与についての紹介があった。外務省としては SDGs を普及させるための取り組みとして、SDGs を「Public Private Action for Partnership: PPAP」として、メディアやエンタメ企業との連携を強めている。

【消費者庁】

消費者庁からは、「エシカル消費（倫理的消費）」についての紹介があった。エシカル消費とは、地域の活性化や雇用なども含む、人や社会、環境に配慮した消費行動のことである。SDGs の目標 12 には「持続可能な生産と消費」について書かれている。エシカル消費に取り組むことは単なる消費行動の改善のみならず、人権や環境の配慮したまちづくりやものづくり、地産地消や地域活性化など、持続可能な社会の実現との関連が多く見られる。

【環境省】

環境省からは、地方環境パートナーシップオフィス（地方 EPO）の運営や環境教育における ESD 推進取り組みの実践事例、地球環境資金事業、環境カウンセラー事業、子どもエコクラブ事業などの紹介があった。

以上4省庁の ESD 関連施策の紹介を受けて、ESD 活動支援センターに期待することとして、関連省庁を串刺しにして、異なる主体がつながる意義が再確認された。

(5) セッション IV. 分科会：地域 ESD 拠点の可能性

【分科会 1】森里川海と大人・子どもの学びをつなぐ ESD

ファシリテーター 一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト代表理事 辰野まどか 氏

①森と水の源流館 事務局長 尾上忠大 氏

②三嶺の森をまもるみんなの会（高知県） 押岡茂紀 氏

分科会 1 では、「森里川海と大人・子どもの学びをつなぐ ESD」と題し、奈良県と高知県からお二人の話題提供者から実践発表があり、それぞれの実践から地域 ESD 拠点としての可能

性についての議論が展開された。

一つ目の話題提供として、奈良県川上村の森と水の源流館から、紀の川（吉野川）の源流とその流域をつなぐ実践についての紹介があった。この ESD 実践には近畿 ESD コンソーシアムが関わり、源流である奈良県川上村とその流域に位置する和歌山と奈良の先生方が協働して創り上げる授業づくりを行っている。

続いて、三嶺の森をまもるみんなの会からの話題提供があった。三嶺の森は高知県下最大の貴重な自然林であるが、近年はシカの食害によって傷つき痛んでいる。そこで取り組まれているシカの食害から自然林を保護する活動や、近隣の小学校等への森林環境教育について発表された。

これらの話題提供をもとに、地域 ESD 拠点に期待することや、地域 ESD 拠点の活動方法について議論が行われた。



川上村での実践を紹介される尾上氏

【分科会 2】 公的施設との連携で展開する ESD

ファシリテーター 宮城教育大学教授 小金澤孝昭 氏

- ①公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団江東区深川江戸資料館 小張洋子 氏
- ②津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザ所長 中平徹也 氏

【分科会 3】 地域と学校をつなぐコーディネート機能を生かした ESD

ファシリテーター 認定 NPO 法人茨城 NPO センター・コモンズ事務局長 大野寛 氏

- ①板橋区成増小学校 支援地域本部代表 白鳥円系 氏
- ②石狩市環境市民部環境保全課 自然保護担当 高橋恵美 氏

【分科会 4】 学校における持続可能な ESD をめざして

ファシリテーター 福岡教育大学教育学部教授 石丸哲史 氏

- ①伊豆市立天城中学校校長 日吉隆徳 氏
- ②静岡大学 ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム コーディネーター 大塚明 氏

7. 参加しての感想

今回のフォーラムには、教育関係だけでなく実に多様な分野からの参加者があり、また多くの関連省庁からの登壇もあった。このように、ESD の推進や SDGs の達成に向けては多岐にわたるマルチステークホルダーによる連携協働が必要不可欠であり、ESD 活動支援センター（全国・地方）の開設が、そのネットワーク構築を支える役割を果たしてくれるとの期待を感じた。私自身としては、このフォーラムで ESD や SDGs に関する多様な分野での取り組みや政策、教育実践の事例を多く知ることができたと同時に、これまで ESD の分野で出会ってきた方々とのつながりがますます広がっていくのを実感した。この経験を生かして、今後の活動にも精力的に取り組んでいきたい。